

礼 拝 順 序

司 式  
奏 楽

前 奏  
招 詞 ヨハネ4:23-24  
讃 詠 559  
交 読 詩 編 13:1-6  
讃 美 歌 試用版119  
聖 書 旧約 ヨナ 3:1-10 ( p.1447 or 1676 )  
新約 マタイ 16:1-12 ( p.31 or 35 )  
祈 禱  
讃 美 歌 6  
説 教 「神のしるしを見る」 秋吉隆雄牧師  
祈 禱  
讃 美 歌 162  
奉 獻 (献金・祈禱)  
主 の 祈 (564)  
頌 栄 540  
祝 禱  
後 奏  
報 告  
讃 歌 練習 561

月 日	司 式	奏 楽	礼 拝	受 付	献 金	聖 餐 当 番
1/26						
2/ 2						
2/ 1(土)	掃					
2/ 7(金)	除					

一 次 週 礼 拝 一

説 教 「十字架を背負って、  
私に従え」  
聖 書 イザヤ22:20-25  
マタイ16:13-28  
讃 美 歌 561 試用版130  
265 332 515 541  
交 読 詩 編 14:1-7

一 本 日 の 集 会 一

求 道 者 会 礼 拝 後 於 談 話 室  
初めて教会に見えた方、求道者  
(洗礼を受けておられない方)は  
お集まりください。

バザー委員会

一 今 週 の 集 会 一

野 庭 苑 訪 問

28日(火) 午前10時

洋 光 台 集 会

29日(水) 午後1時半

入 門 講 座

30日(木) 午前10時

牧 師 面 会 日

30日(木) 午後

祈 禱 会

1日(土) 午後7時半

一 報 告 と お 願 い 一

次 主 日 礼 拝 後、定 例 役 員 会 を いた します。

一 今 週 の 誕 生 者 一

一 集 会 状 況 一

男 女 計  
教会学校 生徒 1/19 8 13 21  
大人 1/19 11 10 21  
成人科 1/19 1 3 4  
主 日 礼 拝 1/19 28 62 90  
旧 約 を 読 む 会 1/21 1 12 13  
本 郷 台 集 会 1/22 1 6 7  
入 門 講 座 1/23 4 7 11

一 牧 師 室 か ら 一

雑誌「週刊金曜日」は「第四権力」であるジャーナリズムが健全な務めを果たせるようにと刊行され、3年半が経った。編集委員の一人である哲学者・久野収氏が「ジャーナリズムにおける近代化とは何か」を書いている。ミロのビーナスは、ギリシャの人々には輝く女神の肖像であったが、中世の敬虔なキリスト教徒には奇妙な石人形にしか過ぎなかった。それが

近代になるとキリスト教徒にとっても美術品として傑作の一つになった。価値を決めるのは、作者でなく、鑑賞者であり、それが近代の特色である。ジャーナリズムの近代化も、情報の送り手ではなく、読み手が価値を決める時代になるということである。読者が単なるファンではなく、メディアを育てる強い意志と持続性が必要である。そのために、文化の各ジャンルで近代化を実現させる有力な「読者大衆」の大群が出てこなければならない、と書いている。私たち大衆が、報道の真偽を判別でき、健全なジャーナリズムを育成させよとの主張であろう。

オランダのジャーナリストのカレル・ヴァン・ウォルフマン氏が書いた「人間を幸福にしない日本というシステム」は、実に興味深く、考えさせられた。氏によれば日本は、アメリカの軍事的庇護の下、独裁的な官僚によって「巨大な生産マシン」になった。物質的には豊かになったが、心貧しくその貧しさが社会の至るところで屈折した形で吹き出している。それは政治的発言者であるべき「市

民社会」が形成されてこなかったからである。中間大衆は、会社にエネルギーをつぎ込み、自分と社会の真の幸せを追及する言葉を失った。管理者たちは、偽りの現実を真実として提示し、組織温存、調和という日本らしさを盾に国民を懐柔してきた。江戸時代、明治維新、そして戦後もこの構造は変わっていない、と言う。

久野氏は、近代化を実現させる有力な「読者大衆」が出現する必要性を力説するが、ウォルフマン氏はそれが全くないと日本を分析している。

生きる意味と価値を実感できる社会を作り出す「市民」の台頭が求められていることに間違いない。そして、それは民主主義を基盤とし「人権と平和」という普遍的価値を追及する粘り強いものでなければならない。それが、犠牲を払っても、内実のある幸せ、そして真の国益になろう。テレビでは連日、健康のための食品、養生、器具などが放映されている。健康は大切だが、長生きして良かったと思う社会を作ることに努力を傾けるべきではないか。

## 週 報

1997年1月26日 降誕節第5主日

巻17

43号

1996年度 教会主題

「キリスト告白に生きる」

聖 句 イエスは言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」 シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

マタイによる福音書 16章15節～16節

- 目 標
1. 生活を整え礼拝、諸集会を守る。
  2. キリストを証しする。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒234 横浜市港南区港南台7丁目8-29

電 話 045-833-5323

FAX 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄